

仕事の目的を考える！

ドラッカー曰く、知識労働では、重要なことは仕事の目的である。これこそ、肉体労働の生産性向上のための条件とは、まさに正反対である」

肉体労働では、重要なことは仕事の方法である。目的は所与である。

肉体労働の生産性向上に取り組むうえで、何を行うべきかを問題にすることはない。問題にするのは、いかに仕事を行うべきかだけである。

知識労働では、仕事は何かが中心的な問題となる。その理由の一つは、仕事がプログラム化されていないからである。肉体労働は、なすべき仕事は常に明らかである。しかるに知識労働では、仕事がプログラム化されることはあまりない。

したがって、知識労働の生産性の向上のために最初に行うことは、仕事の内容を明らかにし、その仕事に集中し、その他のことはすべて、あるいは少なくとも可能な限りなくしてしまうことである。

行うべき仕事は何か、何を期待されているか、仕事をするうえで邪魔なことは何か、を問うことが必要である。これらの問いかけを行い、答えに従って行動するならば、知識労働の生産性は急増する。

仕事の質は何か？

ところが、それでも知識労働の生産性を向上させるための条件が一つだけ残る。

仕事の質とは何かという問いである。

その良い例がアメリカの初等教育である。周知のように、アメリカの都市部の公立学校はひどい状況にある。ところが、それらの学校のすぐ隣に、同じような子供たちを相手にしながら、本当に子供たちを躡け、学ばせている私立学校、とくにミッション・スクールがある。

両者の違いの原因については、さまざまなことがいわれている。

しかし、この違いの最大の原因は、学校の仕事の定義が違うところにある。

公立学校では、学校の仕事は、恵まれない子を助けることとしているのに対し

ミッション・スクールでは学びたい子が学べるようにすることとしている。

すなわち、前者が失敗を基準としているのに対し、後者は成功を基準とする。

明日を支配するもの」ドラッカーより参照

<経営のヒント>

自ら考え、自ら行動する人財が21世紀は求められています。

そのためには、仕事の目的は何か？

期待されていることは何か？

選択と集中するのは、どうすればいいのか？

今回の成功を基準にするは、「オーン、やられた！」と衝撃を憶えました！

これだけではダメなんですね。

最後の問いかけ。

仕事の「質」…21世紀らしい問い掛けですね。

問題からスタートするのではなく、**成功イメージからスタート**することが大事なんですね。